

NDC 分類番号および BSH 件名標目を活用した専門領域初学者のための 文献検索手法の可能性 —哲学・思想分野を中心に—

鈴木亮太 (東洋大学)、竹之内禎 (東京大学)、伊藤淳 (東洋大学)

NDC や BSH は図書館における資料組織化を主目的として開発されたものであるが、本発表では、この他に、読者と図書館資料を結ぶために有効と思われる一つの新たな活用法の構想を提示する。それは、NDC 分類記号および BSH 件名標目を各種専門事典の諸項目に付与することで、専門領域 (今回は哲学・思想分野) の初学者のための文献検索のより有効な手がかりを与えるというものである。タイトル・キーワード検索と併用して、分類記号と件名標目からの検索への導きも用意することで、検索の精度、再現率が上がるとともに、各種専門事典から書籍へという発展的な学びの流れを構築することが可能になると考えられる。この手法の有効性の検討のため、一般によく利用されるタイトル項目からの文献検索との比較結果も発表する。

The possibility of a new method to search literature for beginners of academic specialized area by using classification numbers (NDC) and subject headings (BSH) —Focusing the field of philosophy and thought—

Ryota SUZUKI (Toyo University), Tadashi TAKENOUCI (Tokyo University), Jun ITO (Toyo University)

NDC and BSH have been developed to organize materials in the library. We think it is possible to widen the field of their utilization. Assigning class numbers and subject headings to the keywords in glossaries of the specific fields, they can provide clues for beginners of academic specialized area (at this time, the field of philosophy and thought) to search related literatures beside searching by titles or keywords. This method seems to be effective for increasing precision and recall ratios, therefore, readers can access library materials more precisely. This means, it provides the route to deepen their learning. In order to consider the effectiveness of this method, the results of search by titles are compared.

構想；周知のとおり、日本十進分類法（Nippon Decimal Classification：NDC）と基本件名標目表（Basic Subject Headings：BSH）は、日本目録規則（Nippon Cataloging Rules：NCR）とともに、図書館における蔵書の管理および利用者への迅速な資料アクセス、文献検索のために、図書館資料を分類・排列ないし組織化する方法として開発されたものである。具体的には、NDC によっては、十進法による数的記号列によってそれぞれの図書館資料に分類記号が配当され、BSH によっては、それぞれの図書館資料に件名標目（資料の内容を表す検索のためのキーワード）が付与されており、日本の多くの図書館においてこれらに依拠した資料組織化がなされている。

このように、NDC や BSH は図書館における資料組織化を主目的として開発されたものである。だが、この目的以外にも、NDC の 8 版以降はコンピュータ可読版も作成されており、『日本全国書誌』のデジタル版である JAPAN/MARC その他の書誌データにも採用され、活用されている。また、BSH も、事後結合方式を生かした検索はほとんどなされていない（主標目と細目とをばらばらにキーワードとして登録されている図書館が多い）ようではあるが、ともあれ、資料 1 件 1 件に件名標目（資料の内容を表すキーワード）を付与することは、タイトル以外の言葉からの文献検索を可能にする一つの手段であり、全国的な書誌データベースや、多くの図書館 OPAC において、こうした件名標目からの検索が可能となっている。

本発表では、こうした検索環境をさらに生かし、NDC による分類番号および BSH の件名標目を、タイトル・キーワードからではヒットしにくい文献の検索支援ツールとして応用し、（潜在）読者と図書館資料をより有効に結ぶ可能性について検討したい。具体的には、専門領域における初学者に対して、当該分野の代表的な専門事典の個々の項目・キーワードに、NDC 分類番号および BSH 件名標目を付与することで、文献データベース検索に際する手がかりを導くという構想である。

特に、人文科学系の文献の場合は、必ずしもタイトルに主題をストレートに表すキーワードが含まれているとは限らないため、多くの初学者にとっては、専門事典で用語の概要を知った後、さらに学習を深めるための文献を探索する手がかりとして、その用語に関連する NDC 分類番号および BSH 件名標目から検索するというのは有効な方法であると思われる。

もちろん人文科学の領域においても、項目・タイトルによる文献検索が最も一般的ではあろうが、この一般によく利用される方法論と併用して、分類番号と件名標目のことを知らない利用者のために、専門事典における諸項目に付与された分類番号と件名標目からの検索をも利用可能にすることで、よりの確な検索の手がかりを与え、学習者の「専門事典から書籍へ」という学びの流れを作り出すことができるだろう。

さらに、こうした専門事典の諸項目・キーワードに対応した NDC 分類番号と BSH 件名標目のリストを作成して、ウェブで公開することで、それらを共通の財産として

利用できる。これは、本研究の最終的な仕上がりの形ともなるだろう。

今回の発表では、NDC 1 類に属する哲学・思想分野における専門事典のなかの『岩波哲学・思想事典』を用いて、この手法の問題点とその解決案を巡って考察を加え、NDC 分類番号および BSH 件名標目を活用した専門領域初学者のための文献検索手法の可能性を検討する。

本研究の検討課題；NDC の分類番号と BSH の件名標目によって、例えば NACSIS-Webcat や NDL-OPAC を検索した場合に、項目・キーワードのタイトルで検索した場合と比べて、関連する文献がよりの確に見つけられるか否か。

具体的な検討項目；「再現率」と「精度」

・比較の方法；比較検討の妥当性確保のために、当該事典のなかから適当な数の項目・キーワードを抽出する。

・1 類での、哲学・思想専門事典に関して、諸項目・キーワードのみで検索する場合と比べて、それらの諸項目・キーワードに NDC 分類記号や BSH 件名標目を付与して検索をした場合に、付加的な意義（検索もれの減少＝再現率の向上と、ノイズの減少＝精度の向上）がどの程度見られるかを比較考察する。

・これまでの調査の結果では、項目によっては付加的な意義が認められる。例えば、書名・タイトルに明示的にキーワードが現れていない専門文献や、キーワードどおりの表記ではないけれども当該キーワードを主題としている表現が書名となっている文献は、分類記号や件名標目での検索に意義が出てくる。こうした文献は、タイトル・キーワードのみの検索ではヒットしないことが多いが、分類記号や件名標目での検索ではヒットする。

・ただ、問題もある。哲学・思想系の場合、項目・キーワードのもつ概念の抽象度が高いという理由などから、分類記号や件名標目での検索ではかえってノイズが多くなってしまったり、検索結果の件数が膨大になってしまったりするケースも部分的に見られる。例えば、時間→時間（哲学）[112]、最高善→善と悪[151]、義務論→倫理学—西洋[150.23]、(倫理学各論 当為)[151.2]、微小表象→ライブニッツ、コナトゥス→スピノザ。とはいえ、これはもともと哲学・思想系の専門事典あるいはその諸項目・キーワードそのものが有している問題でもある。キーワード検索でも同様の結果が出てくるからである。

解決案；1 類の哲学・思想系の専門事典では、例えば「義務論」という項目を見ると、色々な義務論についての言及がある。「キケロ」も出れば「カント」も出れば「現代の生命倫理での義務論」も出てくる。「義務論」という見出し語だけでなく、これら説明箇所に出てくる主要用語にも分類記号や件名標目を付与するということが有効と思われる。ただし、これは、資料分類法と当該専門分野の両方に通じていないと

的確に行えない作業であることも留意したい。

結びに代えて；学問的諸領域の初学者を含めた一般の図書館利用者は、NDC 分類番号や BSH 件名標目を知らないことが多い。そのようななかで、哲学・思想分野の初学者が、あるキーワードに対する理解を深めようとする情報要求をもって専門事典を読む際に、項目・キーワードに記されている説明を読んで、さらに詳しい内容を知りたいと思った場合、初学者はその項目・キーワードに関する書籍を求めることになる。このとき、事典の諸項目に、NDC 分類番号および BSH 件名標目を付与してあれば、それを文献検索に活用することができる。この検索手法は、タイトル・キーワード検索を補完する一助となる。また、そして、このように専門事典の諸項目・キーワードに NDC 分類番号および BSH 件名標目を付与するという作業は、専門事典から書籍への学びの流れ、学びの深化のための道筋を構築するものである。

本発表では、哲学・思想分野に限定した実験的な段階での考察ではあるが、人文科学系の初学者の文献検索にとっても有効と思われる分析結果となった。今後は、見出された問題点の検討および解決案を踏まえて、読者と本を結ぶ、実現に値する文献検索の支援手法としての可能性を、他の分野へも拡大しつつ、さらに探っていくこととしたい。